

令和6年度 第2回

# 印西市総合教育会議

## 会議録

令和7年1月20日

令和6年度 第2回 印西市総合教育会議 会議録

日時:令和6年12月20日(金)

15時30分～17時00分

場所:印西市役所農業委員会会議室

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 議題
  - (1) 印西市教育DX推進計画(案)について
  - (2) 不登校児童生徒支援の充実に向けた基本方針(案)について
4. その他
5. 閉会

出席者(6名)

印西市長 藤代 健吾

印西市教育委員会 教育長 渡邊 義規

印西市教育委員会 教育長職務代理者 寺田 充良

印西市教育委員会 委員 豊田 光弘

印西市教育委員会 委員 長尾 香奈

印西市教育委員会 委員 屋敷 毅

設置要綱第9条に基づく職員(4名)

企画財政部長 米井 雅俊

企画財政部企画政策課長 武藤 誠

企画財政部企画政策課長補佐 草間 喜克

企画財政部企画政策課政策推進係長 千葉井 豊

設置要綱第10条に基づく職員(7名)

教育委員会教育部長 三門 宜典

教育委員会教育部教育総務課長 鈴木 圭一

教育委員会教育部教育総務課長補佐 秋山 和俊

教育委員会教育部教育総務課総務係長 清水 純一郎

教育委員会教育部指導課長 石川 真樹子

教育委員会教育部教育センター所長 飯野 晋二

教育委員会教育部指導課教育DX専門官 松本 博幸

(午後 3 時 3 0 分)

企画政策課長  
(進行)

本日はお忙しい中、総合教育会議にご出席をいただきましてありがとうございます。

開会に先立ちまして、まず資料のご確認をお願いいたします。

本日の資料は、会議次第、印西市教育 DX 推進計画概要案、印西市教育 DX 推進計画案、そして不登校児童生徒支援の充実に向けた基本方針案、以上でございます。

不足などございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

続きまして報告が 2 点ございます。

まず 1 点目でございますが、会議は規定により公開とさせていただきます。

本日の傍聴者 6 名でございます。

2 点目でございますが、会議録署名と会議の録音でございます。

会議録署名につきましては、教育委員の皆様にも、名簿順に輪番で署名をしていただくことになっておりますことから、本会議は、豊田委員をお願いいたします。

また、会議録につきましては、全文筆記にて作成いたしますことから、会議は録音させていただきますのでご了承願います。

報告は以上でございます。

それではただいまから令和 6 年度第 2 回印西市総合教育会議を開会いたします。

はじめに、主宰者であります、藤代市長からご挨拶をお願いいたします。

藤代市長

皆さんこんにちは。

今回ですけど 2 案件ですね。

1 つはテクノロジー教育の推進の計画案で、もう 1 つが、主に不登校の子どもたちに関する市としての基本方針という案についてです。それぞれ、皆さんと意見交換をさせていただきたいと考えております。今回総合教育会議の場でぜひ取り上げてほしいということで私の方から、教育委員会の方にお願いをさせていただきました。私自身もこのマニフェストの中で、子どもたちの多様な居場所づくりであるとか、また、日本で一番進んだデジタル教育の推進ということを掲げ

させていただいておりますけれども、そうした中で、特に、教育委員会指導課、教育総務課、そして今回一番ご尽力いただいたのが教育センターの皆さんです。私から見ても、非常に思いのこもった文書を作っていただいたところがありましたので、ぜひこの場でも、ご紹介いただいて、ぜひ教育委員の皆さんのご意見をいただきたいということで、今回議題として取り上げさせていただいた次第です。ぜひ、忌憚ないご意見をちょうだいできると幸いです。

ありがとうございました。

企画政策課長  
(進行)

それでは会議に入ります。

印西市総合教育会議設置要綱第4条の規定により、会議の議長は藤代市長にお願いいたします。

よろしく申し上げます。

藤代市長  
(議長)

それでは、議長を務めさせていただきます。

議題1、印西市教育DX推進計画案について、現在DXの推進計画の策定に向け進めておりますけれども、策定状況について確認したいと思います。

はじめに、担当課よりご説明をお願いいたします。

指導課

教育DX推進計画につきまして説明いたします。この計画は、令和7年度から令和10年度にわたり、印西市の学校教育を、デジタルフォーメーションを通じて進化させるための計画でございます。

資料2ページをご覧ください。

全体で4つの章から構成されており、本日はこの計画の背景、現状と課題、そして施策について説明いたします。

まず、計画の策定の背景です。本計画が策定された背景としましては、技術の急速な進化に対応し、学校教育において、ICTを活用した新たな教育の創造が求められていることがございます。これまで本市では、印西市ICT活用推進計画に基づいて、ICT環境を整備して、学校教育でのICT活用を推進してきましたが、次のような課題が浮かび上がっております。

1つ目、ICT環境基盤の見直しが必要であること。自立的な学習者の育成をすること。教科横断的な情報活用能力の育成のあり方を検討すること。そして、業務プロセスの見直しが必要なことです。これらの課題を解決するために、本計画を策定し、学校教育における目指す姿や取組を明確にし

た。

次に資料6、7ページをご覧ください。

教育DXの目指す姿です。子どもと教職員のそれぞれが進化する、教育環境の実現です。教育DXにおいて、子どもたちが、「協働し、未来を拓く」「個性を輝かせ、価値を創造する」「学び続け、社会に積極的に関わる」ことができるよう支援します。

例えば、テクノロジーを活用し、問題を発見解決する力を育んだり、データ分析やプログラミングを活用して、個性豊かなアイデアを形にしたりする取組を想定しています。

また、教職員においては、「寄り添い支え、深い学びを創る」「創造性と批判的思考を引き出す」「効率と革新で、共に学び続ける」という目標を掲げています。具体的には、テクノロジーの活用を通じて、子どもたちの主体的・対話的で深い学びを支援し、学校全体の効率、校務効率化を進めるを目指します。

7ページにある計画は、「学びの変革」「校務DX」「ICT環境整備」の3つの視点と、7つの施策です。これらの視点と施策において、学校と教育委員会が教育DXにおけるそれぞれの役割を認識し、取組を進めていきたいと思っております。

次に、それぞれの施策について簡単に説明させていただきます。

まず施策の1つ目、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」でございます。子ども一人ひとりの特性に合わせた学びを進めつつ、多様な人々と協働しながら、学ぶことを、まずは推進していきたいと思っております。

2つ目、「STEAMと情報の活用を総合的に学ぶ、先進的な情報教育の推進」でございます。情報技術を通じて、子どもたちが多様な視点を持ち、新たな価値を創造する力を養います。特に、STEAM教育を重視し探究的な学びを推進することで、子どもたちが持続可能な社会の創り手となるように支援します。

3つ目、「学びの困難さの軽減と多様な学習機会の確保」でございます。ICTを活用することで、学習に困難を抱える子どもたちに適切なサポートを提供し、すべての子どもたちが自己の可能性を發揮できる環境を整備します。

次のページをご覧ください。これは、校務DXに関する施策でございます。校務DXは学校の校務におけるデジタル活用を通じて、業務プロセスを効率化し、教職員がより教育活動に専念できる環境を整えることを目標にしており、本計画

では、以下のような施策を考えております。

まず、4つ目となります「業務プロセスの最適化と、データ活用」です。クラウド環境を活用し、業務プロセス全体を見直して、より効率的な運用を目指します。また、データの統合的な活用を通じて、学校経営の高度化、業務の質の向上も目指します。

5つ目は、「教職員の資質向上に関する研修の充実」です。教育DXを実現するためには、教職員自身がデジタル技術を活用するスキルを向上させることが必要です。そこで、教職員を対象とした研修を充実させ、最新の教育技術に関する知識を深めることを支援します。

さらに、次のページに記載しております ICT 環境整備に関する施策について説明いたします。

まずは、「校務系・学習系ネットワーク統合とシステム構築」です。この施策は、持続可能な、一人1台の情報端末の更新を進めるとともに、現在分離している校務系と学習系のネットワークを統合し、セキュリティの高いネットワーク環境を構築することを目的とし、これにより、教職員、そして子どもたちがクラウド上のデータを日常的かつ効率的に安全に活用できる環境を整備して、学校全体でDXの推進を図ります。

最後になります。「データ連携基盤の創出」です。データ連携基盤を整備することで、学校経営のデータを総合的に活用し、子どもたちの個別支援を効率的に行えるようにします。例えば、学習の進行上、進捗状況を一目で把握できるダッシュボードを構築して、教職員が必要な情報を素早く入手して、適切な対応ができるようにしていきたいと考えております。取組内容は以上でございます。これらの施策を通じて、子どもたちが自己の可能性を最大限に発揮し、教職員が教育活動に専念できる環境を整えてまいります。学びの変革、校務DX、ICT環境整備の3つの視点からなる本計画を通じて、印西市の教育がどのように進化していくのか、そして、どのようにして、子どもたちと教職員の成長を支えるかを、ご理解いただければ幸いです。

これで私からの説明は終了としたいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

藤代市長  
(議長)

ご説明ありがとうございました。それでは、今の説明内容について、質問であるとか、またコメント等々ある方はお願いをいたします。

寺田教育長職務代理  
藤代市長  
(議長)  
寺田教育長職務代理

はい。

寺田教育長職務代理。

とてもいい計画です。現状では、教職員がパソコンを利用するためにどのような研修とか、支援を行っているのでしょうか。

藤代市長  
(議長)  
指導課

担当課からお願いします。

市の指導主事が中心となって、情報収集や整理分析する場面で、パソコンをどうやって使っていけばいいかといった技術スキルとともに、子どもたちの思考を深めるためにどのように授業を展開していけるかなどの研修等を行い、教職員を支援しております。

藤代市長  
(議長)  
豊田委員

他にいかがでしょうか。

はい。

藤代市長  
(議長)  
豊田委員

豊田委員。

それでは、2点ほど、質問させていただきます。

まず、単純な質問でございますけども、第二期 GIGA 端末の更新が行われると思います。DX の推進については必要不可欠ということでございますが、現在使われているタブレットと、更新されるタブレットの大きな違いというのは、どうでしょうか。まず1点。

藤代市長  
(議長)  
豊田委員

1点ずつ行きましょうか。

はい。

藤代市長  
(議長)  
指導課

担当課の方からご説明ください。

第一期と第二期の大きな違いでございますけれども、まず端末の機能としての違いを述べてよろしいですか。

豊田委員

あと、セキュリティの関係も併せてお願いします。

指導課                    基本的に大きな違いはございませんが、引き続き、クラウドベースのサービスを安全に活用できるようにします。クラウドベースのデータやアプリを使えるような端末を、機種につきましても、現在活用している Chromebook を引き続き使っていくのか、また別の機器を使っていくのかというのは、整理・検討している段階でございます。ただ、機種が変わっても、今までの教育財産を活用できるようにしていきたいと考えております。

豊田委員                はい。

藤代市長                豊田委員。

(議長)

豊田委員                現在、印西市においては、端末タブレットについては、買い取りで実施されているとお聞きしておりますけれども、これをリースに変更して、例えば、保守だとか、そのようなものをつけて、常に最適な状況に保つというようなことも考えられると思うのですが、これは、例えば、国の補助金の関係だとか、そういったことで無理なのでしょうか。

藤代市長                教育総務課。

(議長)

教育総務課長            今、現状で Chromebook の端末を使っています。これは保守については、保守契約という形ではなく、その都度修繕で対応している状況です。壊れたら直して使っていくというような、運用の仕方をしていまして、今後、第二期の GIGA スクールの機種変更も含めて、保守等も含めて、これから検討していくというところであります。まだ決まってはいる状況です。

豊田委員                もう1点というか、またこの関連なのですが、サーバー自体はクラウド化されるということですが、対象の事業者は、かなりの事業者があるのでしょうか。例えば、NTT のサーバーを使うとか、大崎だとかいろいろございますよね。そういった部分のサーバーを使うということになると思うのですが、それは入札ですとかで、決まっていくと思うのですが、教育関係についてもかなり実績のあるところが数多くあるのでしょうか。

藤代市長  
(議長)  
指導課

担当課の方から。

ご指摘のとおり、クラウドサービスを運用している事業者はたくさんございます。令和9年度にサーバーの更新等の計画があり、一度契約が切れますので、そこに向けて、どういったサーバーを選択すればいいのか、どういったクラウドサービスを使えばいいのかという点について、多方面から情報を集めながら、精査しているところでございます。

豊田委員

それと2点目でございますが、よろしいですか。

藤代市長  
(議長)  
豊田委員

それでは豊田委員、どうぞ。

DXの推進については、現在、働き方改革の大変有意義な施策だと思うのですが、具体的に、先生方の職務の軽減に繋がるようなことがいくつか、ありましたら、まずお願いしたいということと、あと、やはり環境が変わると、使い勝手もいろいろ変わってくると思うのですが、そういった知識ですとか、経験を積んでいくために、何か考えていらっしゃるでしょうか。

藤代市長  
(議長)  
指導課

それでは担当課の方から。

まず、校務の負担軽減に繋がる動きですけれども、具体的には会議の流れを見直したり、印刷物をデジタル化したり、また、クラウドサービスを使って、保護者に向けたアンケート調査などを実施し、その結果をデジタル集計するなどICTを活用した業務フローの見直しをしているところでございます。

また、生成AIの活用について様々な事例が出てきております。すでに一部の学校で取り組んでいる好事例を踏まえて生成AIの活用をしていきたいと考えております。

さらに、教職員の校務でのICT活用スキルの向上ですが、人材育成については先ほど説明させていただきました授業でのICT活用も含めて、校務でどうICTを活用するかというの、市の指導主事が中心となって、いろいろな事例を紹介しながら、広めていくというような取組をしております。

藤代市長  
(議長)

他にいかがでしょうか。

長尾委員                   はい。

藤代市長                   長尾委員、どうぞ。

（議長）  
長尾委員

私の子どもたちが、原山小学校に通わせていただいているのですが、松本先生が、校長先生として、原山小学校にいらっしやったときに、原山小学校の ICT 環境が劇的に進化していて、保護者の私たちからも目に見えて、原山小学校の子どもたちの世界に通用するような、スキルを身につけているというのをすごく感じさせ、見させていただいていることに、感謝しております。この印西市の ICT 環境なのですが、まず、原山小学校であれだけ、みんな、ICT についてやってきたのが、中学校になったら、格段に、授業でこの ICT を活用する機会がなくなってしまって、私の子どもも含めて、よく耳にするのですが、今後は小学校では、印西市としては、ここまでやっていきます、中学校になったら、ここまでやっていきますと、足並みそろえて、やっていくという計画があるのでしょうか。

藤代市長                   それでは担当課の方から、どうぞ。

（議長）  
指導課

中学校での ICT 活用については、ここ最近、中学校の活用もかなり広がっております。国のリーディング DX 事業を中学校区で引き受け、ICT 活用が目に見えて、高まってきている状況です。おっしゃるように、小学校、中学校で、ここまでできるところは、きちんと明確に示して、どの地域でも最低限ここまでやろうというものを、きちんと示していきたいと考えております。

藤代市長                   他、大丈夫ですか。

（議長）  
長尾委員

どこか、これが進んでいるところをモデルにしているようなところがあるのでしょうか。印西独自のものがあるとしたら、教えていただきたいと思います。

藤代市長                   担当課の方からお願いします。

（議長）  
指導課

他地域の学校情報化の推進であるとか、教育の DX 計画や取組を拝見させていただいております。それらを踏まえ、印西市独自のものにしていきます。原山小学校でやったことをイ

メージしながら、全体に広がるようなものを検討するようにしております。

藤代市長  
(議長)                    そういうことだそうです。  
                                  長尾委員、大丈夫ですか。

長尾委員                    はい。

藤代市長                    他の委員の方々から、もし何かありましたら。

(議長)  
屋敷委員                    はい。

藤代市長                    屋敷委員お願いします。

(議長)  
屋敷委員                    全体の資料を見させていただいて、すごく先進的に前に進む感じが受け取れるのですが、具体的に子どもたちが、新しいパソコンを使う環境になった場合、それがどのようになったら、これは成功だったとか、何か展望のような形にすると難しいと思うのですが、何か目標みたいなものがあれば、お聞かせください。

藤代市長                    担当課お願いします。

(議長)  
指導課                    目標としましては、こちらの教育DX推進計画に目指す姿という形で、具体的に記載しておりますが、目に見えない課題や、本当に複雑な状況が生まれてきている中で、子どもたちが問題をとらえて、自分なりの解決方法を見出して、自分なりの方向で行動できるという姿を目指しております。中学校の卒業時に、進学や就職などをする際に、きちんと自分なりのやり甲斐を見つけ、そして自分が学びたい道、進みたい道を明確にもつことができればよいのではないかと思います。

屋敷委員                    ありがとうございます。それを点数つけるとか、そういうのは難しいと思いますが、各自の各生徒さんによって、何か自分が充実したものを得られればいいなと思います。ありがとうございます。

藤代市長                    今の点で、追加で、もし担当からあればお願いします。  
(議長)

指導課 本当に点数で計れないものでもあります。もちろん、点数で計れる部分も、引き上げていけばいいですし、点数では計れないものもより深めていかなければならないと思っております。ありがとうございます。

藤代市長 (議長) 他に。

寺田教育長職務代理 はい。

藤代市長 (議長) 寺田委員お願いします。

寺田教育長職務代理 今回のこの資料、大変わかりやすくできていて、読ませていただきました。ありがとうございます。文科省による CBT システムというものがあるらしいのですが、これは個人的に生徒がデバイスして、クラウドするようになるのですか。その辺はどういう流れになりますか。

藤代市長 (議長) それでは、担当課の方から、今の用語の解説も含めて、お願いいたします。

指導課 CBT とは、いわゆるコンピューター・ベースド・テストングですね。国が現在紙ベースで実施している全国学力・学習状況調査などを、コンピューターベースで、テストできるような形にしていこうという動きもございます。それを適切に受けられるような環境づくりを進めていこうという流れはございます。また、コンピューターベースでテストを受ける際には、情報を適切に読み取って、整理判断して表現するという力が必要になってきますので、情報活用能力を段階的に高めていきたいと思っております。

藤代市長 (議長) 最後、教育長、もし何かあれば、お願いします。

教育長 この概要版で、今説明していただきましたけれども、目指す姿、子どもと教職員、それに向けての3つの視点と7つの施策というところを非常にわかりやすく、書いていただいて、冒頭、市長からもおっしゃっていただきましたけれども、松本教育 DX 専門官を中心に、担当の皆さんが、本当によくここまで素晴らしいものを作っていただいたなと思っております。そして、最後、ロードマップがついていますので、この計画に沿って、令和10年にはここまで印西市の子どもた

ちが、あるいは教職員の環境がなっているということが、とてもよくわかるというものです。私が言うのもあれですけど、素晴らしい計画を作っていただいたなと思っております。今、委員の皆さんから質問やご意見が出ましたので、そういったものも上手く反映しながら、しっかりやっていきたいなと思っているところです。

藤代市長  
(議長)

はい。ありがとうございます。

私からも何点か、せっかくなので、質問させていただきま  
す。これ進めていく上で、やっぱり先生方が対応できるかど  
うかというところなのだと思うのですよ。松本先生ご自身  
も、まさに原山小学校の現場でいろいろと感じられたことも  
あるかと思うのですけれども、実際に各学校で展開していく  
上で、特に先生方が対応していく上でのポイントとか、これ  
が一番重要な点なのだというものがあれば改めて教えていた  
だけると幸いです。

指導課

教職員は、学びたいという意欲をもっています。そこで、  
教職員が自主的に学べるような環境を整えるために研修の時  
間や予算を確保することが必要だと考えます。管理職がビジ  
ョンを明確に示し共有して、教職員を丁寧に支援していくこ  
とが大切だと思います。

藤代市長  
(議長)

私も市長に就任する前に原山小学校に2年連続での研究会  
である公開授業の場にお邪魔をして、すごくびっくりしたの  
が、先生方が対応されているのですよね。職務の中でも、議  
事録の作成なんかにもいろいろと使われていて、生成AIを  
使っていたりとかということで、やっぱり先生方、真面目で  
すし、能力の高い方が多いので、適切なマネジメントの方向  
性のもとで、適切な能力開発というところがなされれば、や  
っぱりまだまだできることが多いのだと思いますので、その  
辺りは、市長部局としてもしっかりと予算等々含めて、対応  
していければと今改めて感じたところです。

あと、2点目、ぜひ伺って見たかったのが、これもどなた  
かから質問あったかと思えますけれども、印西市ならではの  
DX教育について、この辺りについて、お考えがあればという  
ところと、あと、印西市全体もそうなのですが、その学校  
ごとの特色を伸ばしていく上で、どういう切り口とか、ど  
ういうアプローチがあるのか、その辺りも、ぜひ教えていた  
だけるとありがたいです。

指導課

特色ある情報教育を推進したいと考えています。STEAM といった科学や数学、芸術などを含めた分野と、情報教育を融合させた取組を進めたいと考えております。そのために、ロボットの教材を活用し、プログラミングをしながら、エンジニアリングやデータ活用を統合的に学べるような、探究的なプログラムを作っていきたいと考えています。それはおそらく、他地域にはあまり見られないカリキュラムだと思いますので、そこは、独自になるかと思えます。また、印西ならではの教育としては、各学校の特色を出しながら、地域に根差した形の探究的な学びも同時に進めていく必要があると思えます。印西は、歴史や自然にも恵まれた地域でございますので、そのような特色を生かした探究的な学びを推進していきたいと考えております。

藤代市長  
(議長)

私、常々申し上げていますが、印西ならではの教育というところで、自然との距離というのですかね。これが一番の魅力の1つだと思いますので、その辺り、その子どもたちの原体験は、すごく大人になってから大事だと思うのです。その支援と設定の中で、DX の教育についても学べるような、まさに STEAM 教育は、そういった側面も非常に可能性がある分野かなと思えますので、ぜひその辺りも意識いただくと大変ありがたいかなと思えます。

あと、従来の教育との比較においてなのですが、私自身は答えがないところがありまして、紙媒体は残るわけじゃないですか。どこまで紙とか手書きでやったらいいのか、例えば、紙の代表例で、学校図書館なんかもある中で、従来の学びとどう、すみわけではないと思うのですが、子どもたちにとって最適な学びを作っていくかというところについて、何か先生なりのお考えがあれば教えていただけるとありがたいです。

指導課

アナログかデジタルかという2極的な議論があるのですが、どちらか一方ではなく、どちらもバランスよく使っていくのが大事かなというふうに思っています。子どもたちが、自分が置かれている状況や相手との関わりの中で、活用するテクノロジーを選択できるよう学びを進めていきたいと考えています。デジタルとアナログは融合していきます。そのため、デジタルとアナログをバランスよく活用できるように子どもたちが選択できるようにしたいです。

藤代市長  
(議長)

最後、コメントですけれども、原山小学校が2年連続でFLLの全国大会進出が決まったということで、おめでとうございますというのを申し上げておきたいのと、やはり、全国大会や世界大会に出られるだけのものが、しっかりと教育の現場において提供されていて、その中で子どもたちが自ら学んでいった成果だと思えますので、しっかりとこの原山小学校で培ってきたものを全市に展開していただくことが、印西市の子どもたちにとって、とても重要だと思えますので、しっかりと対応いただければと思います。デジタルは、どうしてもこれから生きていく中で欠かせないものなので、ベースになるような知識とか、あとは、デジタルに触れるっていうことについてなるべく子どもたちが、負荷を感じないように、データに対する親和的な環境というものをしっかりと作っていくことが大人として大事なのかなと思っています。ただ、一方であくまでも手段なので、そこは教育委員会の皆さんもよくわかっているところだと思いますけれども、しっかりと子どもたち一人ひとりに寄り添った学びの場を作った先に子どもたちが主体的に自らの人生を生きていける力を育むというところが、教育を進めていく大人の最大責務だと思いますので、その目的の中でしっかりとデジタル教育というところを進めていただけるとありがたいかなと思います。

あと、先生方の負担のところ、今回いろいろと日本でも一番進んだ計画のもとで進めていくということで、現場の先生方のかなり負荷がかかってくるかと思えますし、特に、これは若干偏見も入ってしまうかもしれないけれども、少し年次の高い先生方も含めて、しっかりとすべての先生方が対応できるような、そうした体制を、しっかりとステップを刻んでいくであるとか、ないしは、ちゃんとその各学校の中で推進役になっていただくような方を生み出していくとか、そういったその現場の方々の負担を軽減しながら、先生方がより子どもたちに最適な学習を提供できるような環境整備というところも強く意識いただけると幸いかなと思います。

あと、最後に、寺田委員からもご指摘されて、そうだなと思ったのですが、やはり言葉は難しいというのは率直に思いまして、DXということは、例えば70歳を越えて、うちの父なんかわからないのだと思うのですよ。あとは、STEAM教育とか、この場にいらっしゃる方々は皆さん、何の略かも含めてわかっていますけれども、やっぱり一般的にはSTEAMと言

われても、よくわからないという話だと思うのですよね。なので、伝えなければいけない相手によって、その言葉の選び方であるとか、表現の仕方というところは、考えながらお伝えいただくということが、より、皆さんに、受け入れていただけるような、デジタル教育になっていくのかなと感じたところですね、やはり、日本で一番いいものを進めていこうとされているので、せっかくであれば、多くの市民の方々に、ちゃんと評価していただけるようなことが大事なと思いますので、その辺りもご留意いただけるといいのではないかと思います。

私の方でも、しっかりと教育委員会の方で検討されていることが確認できましたので、引き続き教育委員会の方でご検討いただければと思います。

それでは議題1の印西市教育DX推進計画案については以上とさせていただきます。

藤代市長  
(議長)

続きまして議題の(2)ですね。不登校児童生徒支援の充実に向けた基本方針案について、こちらにつきましても、現在、基本方針の策定に向け進めておりますけれども、この策定状況について確認したいと思います。

それではじめに担当課からご説明をお願いいたします。

教育センター  
所長

教育センターの飯野と申します。

私から、不登校児童生徒の支援の充実に向けた基本方針案の策定につきましてご説明いたします。表紙をめくりまして、資料の1ページをご覧ください。はじめに、本基本方針の策定の目的でございます。市教育委員会では、印西市総合計画及び第二次印西市教育基本計画に基づき、その推進と基本理念の具現化に取り組んでおります。特に、学校教育におきましては、変化が激しい社会を生き抜くために必要な生きる力の育成に向け、学ぶ力、豊かな心、健やかな体をバランスよく育むとともに、自らの能力を引き出し、習得したことを活用して、様々な課題に対し、主体的に解決できる児童生徒の育成に努めていきます。各小中学校では、不登校の未然防止や、不登校の児童生徒への支援など、様々な取組を行っているところですが、不登校児童生徒の割合は、全国的な傾向と同様に年々増加しており、その支援を喫緊、かつ重要な課題として取り組む必要があることから、市としての支援の方向性を明確にし、不登校児童生徒支援の充実に向けた基本方針を策定することとしました。続いて、Iの不登校の定義でご

ざいます。文部科学省の生徒指導提要において、不登校は何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは、社会的要因・背景により登校しない、あるいは、あるしたくともできない状況にあるため、年間30日以上欠席したもののうち、病気や経済的な理由によるものを除いたものと定義されております。

続いて、2ページをご覧ください。小中学校の不登校児童生徒の割合の推移でございます。このグラフに表れておりますとおり、本市におきましては、全国の割合を下回ってはいるものの、小中学校ともに近年増加傾向が続いているということがわかります。

続きまして、3ページをご覧ください。Ⅱの不登校児童生徒支援の基本的な考え方でございます。登校することのみを目標とするのではなく、児童生徒に多様な学びの場を確保し、児童生徒の意思を尊重しつつ支援することとし、児童生徒が自らの進路を主体的にとらえて社会的に自立することを目指します。

続いて、Ⅲの不登校児童生徒支援の方向性でございます。不登校児童生徒支援の充実の前提としましては、児童生徒が安心して学校に通えるよう、魅力ある学校づくりを推進することが重要となります。学校は児童生徒と教職員との信頼関係や、児童生徒相互の良好な人間関係づくりに取り組むとともに、自己有用感や自己肯定感を感じられるよう、居場所やきずなづくりを進めていきます。その上で、児童生徒やその保護者が必要な支援を受けられるよう、学校が早期の状況把握と早期支援を行うとともに、学校と市教育委員会が連携して、多様な学びの場の確保と積極的な情報提供を行いながら、個々の状況に応じてきめ細やかな支援を行っていくこととします。具体的には、下に示しております3つの柱、「早期の兆候把握と早期支援」「不登校児童生徒への支援の充実」「保護者サポート、関係機関や民間施設等との連携推進」により推進支援を行います。

4ページをご覧ください。ただいま申し上げました3つの柱のそれぞれについての具体的な支援策でございます。

まず、1点目の早期の兆候把握と早期支援についてです。学校が中心となって行います、日常的な観察や調査、相談による「児童生徒の心身の状態変化の把握」、学校と関係機関が情報や支援方法を共有し連携する「チーム学校による早期支援」、学校とその地域が一体となった支援のための「コミュニティ・スクールの仕組みを活用した学校と保護者、地域

との連携強化」、この3つの支援策による支援を行います。  
なお、コミュニティ・スクールにつきましては、本市において、今後段階的に導入予定の仕組みでございまして、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となった不登校対策や支援を行えるようにしたいと考えております。

次に、大きな2点目の不登校児童生徒への支援の充実についてです。令和6年度8中学校に開設しました、教室以外の居場所となる「校内サポート教室の整備」、それから、市において不登校児童生徒支援の地域拠点として設置しております、緑のまきばや森のステーションまきばでの「教育支援センターにおける支援」を行います。5ページをご覧ください。教育センターに、教育全般についての悩みを、Webフォームや電話で相談できる「教育相談窓口の設置」を行います。また、一人に1台貸与しておりますパソコンを活用したオンライン学習の「ICTを活用した学習の支援」、指導員等が不登校児童生徒の自宅等を訪問し、学習支援や悩みごとの相談を行う「訪問型支援による学習指導」、集団的な学びに困難を抱える児童生徒が学びやすい、特色ある取組を行う学校づくり等の「多様な学びの選択肢の充実」、これに向けた調査研究、これらの6つの支援策による支援を図ってまいります。

最後に、大きな3点目の保護者サポート、関係機関や民間施設等との連携推進についてです。まず、保護者がどこへ相談すればよいかわからず、一人で悩みを抱え込むことがないように、「教育センターによる総合相談支援」により、相談窓口を総合的、一元的に対応できるようにします。また、「保護者へのサポート」として、不登校児童生徒の保護者の情報交換の機会や、保護者向け情報の周知、相談できる場づくり等を行うとともに、不登校児童生徒支援施設を利用した際の費用の支援について調査研究を行います。他にも、市の福祉部局との連携の強化や、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの支援による「福祉や医療等の相談、支援機関と連携した支援」を行います。また、フリースクールやNPO等の「民間施設等との連携推進」や、「民間施設等の運営者への運営経費の一部補助」、こういったものを行い、関係機関や施設等と連携した支援の充実を図ってまいります。

なお、ここまでご説明した支援策の中には、現在すでに行っているものも多くございますが、本指針に基づく取組といたしましては、令和7年度から実施するものであり、必要に応じて、今後見直しを図っていく予定でございます。

以上で、不登校児童生徒支援に向けた基本方針案についてのご説明とさせていただきます。

どうぞよろしく願いいたします。

藤代市長  
(議長)                   ご説明ありがとうございました。  
それでは質問、ご意見等ある方は、お願いいたします。

長尾委員                   はい。

藤代市長                   長尾委員。

(議長)  
長尾委員                   説明ありがとうございました。2ページ目に、小学校中学校の不登校生徒の割合の推移グラフがあるのですが、この中で実際にどれだけの割合の生徒が、支援センターやフリースクールなどの、そういう支援を受けられているのか、わかりましたら教えてください。

教育センター  
所長                   割合としては出していないのですが、令和5年度で申し上げますと、市の緑のまきば、森のステーションまきばという教育支援センターに通った子どもの数は、小学校ですと、5名、中学校が17名、計22名。本当に限られた方しか、なかなか直接的な支援ができていない状況です。

フリースクールへの通所の人数につきましては、すみません、手元に資料がございません。

藤代市長                   他に、いかがでしょうか。  
(議長)                   それから、他の担当の方から補足ありますか。

指導課長                   不登校の全国的な調査によりますと、約4割の不登校の児童生徒が「どこにも相談できていない」という調査結果が出ていたのを記憶しています。印西市では、同じような実態があるかどうかは現在のところ確認はできておりません。

藤代市長                   今、不登校の子どもたちは、令和5年度で300人ぐらいでしたよね。  
(議長)

教育センター  
所長                   令和5年度ですと不登校児童数、小学校が146名。中学校が163名ですね。概ね300名ぐらいです。

藤代市長                   今、市内のフリースクールで、民間が2箇所でしたか。

(議長) はい、指導課長。

指導課長 把握しているのは、市内1箇所でございます。

藤代市長  
(議長) 今、印西市内から通っている子どもたちが20名から30名ぐらいでしたよね。在籍っていう意味で言うと。そこに、まきばの方々が、12名ぐらいですか。今、13名ですか。だから、フリースクールと合わせると、トータル30名から40名ぐらいですかね。中学校はいわゆる、校内フリースクールと言いますが、さっきサポート教室の話もされていましたが、定員はどれぐらいでしたか。

教育センター  
所長 定員が決まっているわけではないのですが、11月末の時点で、4月の開設から1日でも通室があった生徒の人数は、8校で85人です。その子どもたちが、必ずしも不登校ということではないです。自分の教室では、学びづらいため、少ない人数を望んでいるということもありますので、いわゆる不登校の定義の数ではないです。

藤代市長  
(議長) そこが1つ防波堤になってきているってことなのですかね。そういう意味で、今、不登校の子どもたちというところで見ると、市内300人だとしたときに、1割ちょっとぐらいの子どもたちが今、ご自宅以外の居場所に何かしらアクセスされているということですよ。そう考えると、まだまだ学校の外の居場所づくりということが重要ということなのですかね。全国的に見ると、今の割合ってそんなに印西が突出して少ないという感じではないのかなという理解なのですが、そのあたり、指導課長いかがですかね。ちょっと全国の方が、居場所ある子どもたちが多いいつというような割合でしたか。

指導課長 学校以外の居場所について、印西が全国と比べて少ないかどうかは明確ではありません。今、不登校の子どもが増えて中、課題となっていることは、どの関係機関ともつながっていない、あるいは、家庭に引きこもっていることであると思います。家族以外の人と、生活が送れるような環境づくりが大事だと思っております。

藤代市長  
(議長) 他に長尾委員、大丈夫ですか。

長尾委員 先ほど、「どこともつながれない家庭」ということで、そういう方たちには、市としてどのようなアプローチを、どのような支援をされているのか、もしあればお伺いします。

藤代市長 指導課長。

(議長)  
指導課長

今現在、各学校からいろいろなサポートを紹介しています。学校が保護者と繋がることのできる場所は積極的に情報を伝えるようにしておりますけれども、ご家庭によっては、学校との信頼関係が築けない場合、そういった情報を、適時、伝えることが難しいというところです。そういった点は、ホームページとか、市の教育センターからも情報発信しています。いろいろなサポートを発信しておりますが、それが本当に必要な人に、届いているのかということについて十分できていない状況があると思います。よって、まだまだやらなければならないことがあると考えます。

藤代市長 長尾委員。

(議長)  
長尾委員

情報を発信してくださっていて、実際にそういう方たちに支援したいと活動されている方々もいると思うのですが、そういう支援しようとしてされている方や団体が、そういう困っている家庭がいるという情報にアクセスすることは可能ですか。もし可能であれば、どのような方法で、その情報にアクセスできるのでしょうか。

藤代市長 指導課長。

(議長)  
指導課長

市内の不登校支援団体や、親の会等、こちらで情報をいただきましたら、教育センターのホームページに掲載し、保護者がそういった支援団体にアクセスするといったことの道筋というのはございます。

しかし、不登校支援団体や、親の会から、不登校の個人に直接アプローチするという事は、受け手の方がそれを望んでいらっしゃるのであれば、そういったやり方も可能なのですが、一般的には難しいと考えております。お困りの人が支援団体につながる方法を検討していかなければならないと思っております。

藤代市長 他にご質問、ご意見ある方。豊田委員。

(議長)  
豊田委員

今、長尾さんの方から、フリースクールの関係ですとか、家庭の話が出ておりましたけれども、教室以外で学習されているお子さん、先ほど施策の中で、民間連携を強化されていくということでございますけれども、例えば民間と、今後考えられる連携というのはどういったものがあるかということをお聞きしたいということと、あと、例えば、教室以外でICTを活用して、自分で学習したり、フリースクールで、学習したりした子どもの、学校としての評価というのは、今後どんなふうにお考えになりますか。例えば、通知表の関係ですとか、出席日数の関係ですとか、そういったものがもしあれば、お聞かせ願いたいと思います。

藤代市長  
(議長)  
教育センター  
所長

教育センター所長。

フリースクールの方から学校、教育委員会に、保護者の方の同意を得た上で、必要に応じて、フリースクール、それから学校側で作成した、子どもへの支援計画を共有して、支援の観点として取り入れていくとか、あと、フリースクールでの学びとか、活動の様子を文書や訪問で伝達して、学校での支援の参考や出席の判断、評価等の参考にする、そういった情報提供というところでの連携が考えられます。

あと、2つ目、フリースクールに通所している、子どもの成績や出欠ですけれども、出席につきましては、学校長の判断で、通所の状況を見た上で、指導要録上の出席扱いをするということが可能となっております。成績につきましては、その欠席中に、学校に行けない間に行った学習内容が、そのまま在籍する学校の教育課程に照らし合わせて適切であると認められれば、学校の判断で成績の評価に反映するということができます。なので、判断材料として、例えばオンラインでの学習の成果であったり、学校から課題として配付したプリントや教材とかができて、また、フリースクールの方から、このような学習をしましたよというようなことを情報提供されたもの。こういったものから、成績をつけるということも、学校長の判断で可能です。

藤代市長  
(議長)

他に、いかがでしょうか。  
屋敷委員。

屋敷委員

4ページなのですが、(3)で、コミュニティ・スクール

の仕組みを活用した、その先、地域との連携強化となっておりますが、自分たち地域の人間が、何ができるのかとか、どうしたらいいのかとか、何か見通しのようなものがあれば、ちょっとお聞かせください。

藤代市長  
(議長)

教育センター所長。

教育センター  
所長

コミュニティ・スクールにつきましては、申し上げましたとおり、今後推進していくものですので、現在のところは、まだはっきり具体的な見通しというものは、わかりませんが、地域の方々の声をいただく中で、不登校対策や児童生徒の支援に繋がる取組のヒントが得られることを期待しております。

あくまでも、イメージの一例となりますが、校内における居場所づくりや、地域の特性を生かした多様な体験活動、こういったものの支援に、地域の方が積極的に関われる体制ができればいいかなというふうに考えているところです。

屋敷委員

できれば、そういう自分の子どもがなった経験のある保護者の方とか、前はそうだったっていう方がいらっしゃると思うのですね。今は、ちゃんと行けるようになったよとか、そういう方がね、集まって対応できるような会議がとればいいのかと思います。

藤代市長  
(議長)

何か今の点でありますか。追加で、教育センター長の方から。

教育センター  
所長

そういった機会というのは、本当になかなかないものですので、ぜひそういったところは、取り入れれば、ありがたいなというふうに思います。

藤代市長  
(議長)

他に、いかがでしょうか。

教育長の方から、もし何かあれば、お願いします。

教育長

不登校に関しては、いろいろな課題があって、大事なことは、大前提として、「不登校を生まない、減らしていく」ということではあるのですが、3ページの2番目に書いてある基本的な考え方が、これにすべて集約されていると思います。これに向けて、具体的な支援の方向性ということで、子どもたちの居場所を、誰とも関わらずにというところを一人でも減らしていくというところで、よく考えてくれていると

思います。

また、子どもたちはもちろんですけど、その保護者の方に対しての支援策も書かれていまして、やはり保護者の方によっては、すごく一人で悩んで孤立してというような方もいらっしゃると思います。そういう子どもたちを、支援していくというところもきちんと書かれていますので、ぜひ、この方針に沿って、いろいろな支援をこれからしていきたいと改めて思っているところです。こちらも素晴らしい方針と言っただけだと思いますので、これを生かして、具体的に動いていくということでやっていきたいと思っております。

藤代市長  
(議長)

私からもせっかくなので、お伺いをさせていただきます。さんざん、いろいろなところで聞かれてきたかと思うのですが、やっぱり不登校の子どもたちが増えている要因というのはどの辺りにあるか。もし、お考えなどありましたら教えていただけると幸いです。教育センター所長の方から。

教育センター  
所長

なかなか、一概にこれが原因というのは、はっきりとは申し上げづらいと思うのですが、ちょっと今の状況からしますと、集団への不応適とか、学習や進路の悩みや不安を抱え、あと保護者の方の学校教育に対する考え方により、多様化している。あと、行きたくてもいけないという、ちょっと発達障害の特性等を要因するもの、あるいは、本当に複合的に要因が重なっての現状なのかなというふうには認識しております。

藤代市長  
(議長)  
指導課長

課長、補足があれば、お願いします。

原因が1つというお子さんは少ないと思います。いろいろなお子さんの置かれている環境もありますし、やはり一番は、その子の自信を失っている、希望というか、そういったものが、失われつつあるときに、ちょっと学校にも行きたくない、何もしたくない、無気力になっていくというところが、不登校に繋がっているケースが多いかと個人的には思っています。

藤代市長  
(議長)

あと、もう1点、どうしても担い手というか、こういった不登校の問題に対応いただく、職員の方々もそうですし、あとは、先生方、民間であれば民間の事業者の方々含めて、こ

の担い手をどう育て、どう担っていただくのかって、結構大きな課題があるのかなとは思っているのですが、その辺り、もしもお考えがあれば教えていただけると幸いです。  
指導課長。

指導課長

これまで、教員免許を持った方に不登校のお子さんの支援をお願いしていましたが、今後はコミュニティ・スクール等も推進していく中で、地域の教育に、免許関係なく、子どもに寄り添える方々の協力という方向も検討していくとよいと思います。また、子どもにとって、支援していただけるお人柄というのがとても大事で、相性みたいなものがございます。寄り添える人材を探し、受け入れてもらえるような居場所も作り、支援していけたらと思っています。

藤代市長  
(議長)

いくつかコメントさせていただくと、もう社会問題なのだと思うのですよ。もう、2%に迫るような子どもたちが不登校になっている。さらにその手前のサポート教室も含めて、相当な数の子どもたちが学校という場自体に対して、なかなか対応が難しいというのは、もう社会問題として重要な問題としてとらえるべきだと私は思っているのですね。先般とある保護者の方々と意見交換するとき、そもそも、学校の教室が多様な子たちに対応した場所になったら、すべて解決するのだよということを言われましたけれども、それは相当困難だと思っていまして、今、先生方も35人の子どもたちに対して1人の担任では、とてもではないですけど見きれないので、私は、やはり、多様な居場所を用意するという方向に、シフトしていかないと、現場の先生方も疲弊していくのだろうなということはずごく感じているところなのです。なので、市長公約の中でも、いろいろと書かせていただきましたけれども、なるべく切れ目のない支援という、まさに、その学校の中の居場所もそうですし、学校の外側の居場所を、うちの中でもちゃんと居場所があるような環境もそうですし、民間の側の居場所もそうですし、公的な居場所も含めてですね、多様な居場所を、選択肢を用意していくということが重要だと思っていまして、そういった観点で、今回作っていただいた方針案については、非常にそういった点を押さえていただいているというところで大変ありがたいなと思っていますところですね。

あとは、先ほど教育長からもありましたけれども、保護者の方々、子どもたちが本当に千差万別なのだなと感じてい

て、その不登校と言ったときに、どういう状態なのかで、かなり違うのだと思うのですよね。先ほどおっしゃっていた、自信をなくした子もいれば、逆に、習い事には、普通に元気に通えているという方もいたりする現実があるのだと思うのですよ。なので、やはりその子どもたちと人に寄り添ったという意味でも、いろいろな居場所を作っていくしかないでしょうし、あとはそこに繋いでいく、まさにその教育センターも含めて、その形成になっていく方々の人材育成っていうところも非常に大事なのかなと思っているところです。

あと、保護者の方々の話ですね、子どもの未来を案じる親が対象なのだと思います。保護者の方々も非常に不安です。特に、子どもが学校に通えなくなった後に、その保護者の方々もキャリアを断念されるケースが非常に多いですね。特に、今のところどうしても、お母様に普段頼ってしまっているケースが多いように、私の周りだけを見ていると散見される場所でもあります。しっかりとそうした保護者の方々の、なるべく負担を軽減していきながら、その保護者の方々の人生も諦めさせないような、そんな場づくりをしていかなければいけないというのが私なりの思いでもあります。また、その保護者の心配というところであるのはやっぱり将来というところでいくと、高校の進学とかですよね。さっき内申点の話もありましたけれども、先日、芦屋市の高島市長が、問題提起されていましたが、千葉県状況を私も十分に把握できていないですが、やはり子どもたちの今ということもそうですけれども、その先に向けて、市として何ができるのかということも考えていかなければいけないというのが私の思いでもあります。その上で、今回この方針案が1つ大きなスタートになったかと思しますので、しっかりと、今後どういうゴールをもって、その中でどういうロードマップで進めていくのかということについては、今後継続的に検討いただけるとありがたいかなと思います。

あと、どうしてもこれは学校問題全般ですけれども、県との連携ですね。特に、教員の方々は県の職員でもあるというようなどころもありますし、例えば、フリースクールの支援でいえば、どうしても市外の子どもたちを民間のフリースクールで受け入れているという現実もあるかと思えます。隣の茨城県に行くと、県として支援をしているという枠内で各自自治体それぞれに個別の取組をされているという二重の支援になっているかと思うのですけれども、東京都もそうです。なので、なるべく県全体として取り組めるような、県との連携と

いうところも、私なりに模索をしていきたいですし、教育委員会の方でも、ぜひ県庁の方にアプローチをいただけるとありがたいかなと思っております。ちょっといろいろ注文が多くなってしまいましたけれども、しっかりと市長部局としても、なるべく教育委員会の方で進めやすいような体制づくりについて、引き続き支援できることは、何でもやっていきたいと思っておりますので、ご協力いただけると幸いです。

それでは、こちらの不登校児童生徒支援の充実についても、教育委員会の方でよく検討されていることが確認できましたので、引き続き検討をお願いできればと思います。

それでは議題、(2) 不登校児童生徒支援の充実に向けた基本方針案についても以上とさせていただきます。

本日の議事は終了しましたので、進行を事務局の方にお戻しをいたします。

企画政策課長  
(進行)

ありがとうございました。

次第の4、その他でございますが、先月11月に開催いたしました、第1回総合教育会議の際の議題でもございました過大規模校原小学校への対応に関しまして、市長の方から報告がありますので、お願いいたします。

藤代市長

その件と、あともう1件、実は昨日いろいろありまして、その点も含めて2件ご報告をさせていただきます。

まず、原小学校ですけれども、先日の総合教育会議の議論も踏まえながら、市の方針としては、分離新設を進めるというところといった中で、中学校については、増築というところをベースに対応していくところです。

また、開校時期については、令和10年の4月というところを目指すというところで、ここは生徒数で最大になってまいりますので、そこを目指していくということと、また、場所については、なるべく市街化区域内の民間の用地を第1候補にというところで考えています。もともと選択肢としては、東の原公園というところも実はありまして、第2候補ということでそういった案についても、考えていたところがあります。そういった案を取りまとめた上で、その後、議会、全員協議会の場でご説明をさせていただいて、先週から、保護者、また地域の方々への説明を開始しているところでもあります。この後、今週末、まさに明日、明後日ですね、原小学校の保護者の方々全員、また、これから小学校に上がってこられる方々の保護者の方々、そして、その小学校区の地域の

皆さんです。特に、今回の候補予定地になってくるだろう、東の原地区の皆さん、この辺りの方々に意見交換会ということで、原小学校の方で、私も教育長も参加させていただきまして、意見交換の場を持たせていただくというようなスケジュールになっています。先々週から、いろいろと地域の方々と意見交換させていただき中で、また、実はSNSの方でも、意見交換会の実施ということをご案内しつつ、今の市の考え方、検討状況について、協議する中で多くの方々からいただいたのが、やはり分けた分離施設がいいのではないかという声が多いということがあります。

ただ一方で、やはり増築のところ、すでに小学校も対応できている中で、はたして二重投資になるのではないかといったような声も一部の保護者の方、また、地域の方からいただいているところもあります。こういった点、もう1つ場所に関して、やはり東の原公園というところについては非常に多くの市民の方々が、愛している場所でもありますし、まさに場所を求めて、地区に住処として購入された方も多数いらっしゃるという中で、多くの方々から東の原公園はどうかという声はいただいているところもあります。

そういったところもありますので、市としては、基本的には市街化区域内での民間の用地、こちらが確保できればそちらで進めていくと。仮に、そこが難しい場合には、もう現状の原小学校の増築という現行の路線上でできることをやっていくという、この2択になってくるのかなというところが、この2週間ぐらいで、いろいろな方と話している中で私の今の考えでもあります。こういったことをベースにしながら、明日、明後日とまた、保護者の方、地域の方々との意見交換も踏まえながら、なるべく早いタイミングで、市としての、しっかりと方針をお示しした上で、できれば、年度末までには、しっかりと予算もそうですし、もろもろ含めて、固まったような状態に持っていけるように、進めていきたいと思っているところであります。今、いろいろと関係各部総出で、相当ご対応いただいています、庁内でワーキングまでいかないのですけども、関係各部の部長級以下集まっていたら、7月の末に就任してからも9回ですか、開催をしまして、この問題については、全庁挙げて、職員の方々には相当ご尽力いただいているところですので、ちょっと改めてこの場を借りて御礼を申し上げたいと思います。ただ、まだまだ予断を許さない状況でもありますので、しっかりと、子どもたち

のために寄り添った環境を作っていけるように、私も全力で取り組んで参りたいと思っております。

あと、もう1点ですね、昨日の夕方、市の方に脅迫めいたメールが届きました。お隣の柏市の方で殺傷事件がありましたけれども、そちらの容疑者を名乗る方から、千葉県内の子どもたち、小・中学生を24日までに、なるべく多く、その危害を加えるといったような内容のメールが届いたというところでした。そのあと、市の教育委員会の方でも、いわゆるスクリレと言われる保護者の方々向けの案内をするシステムがありますけれども、そちらを活用いただいて、計3回、情報発信をいただいていたところでもあります。また、市長部局としてもSNSを活用しながら、市民の方々に呼びかけるところと、警察とも連携しながら、警備の方の強化をいただいていたところでもあります。結果としては、昨日の夜、おそらく犯人だろうという方が、印西市内で、逮捕されるということもあつて、今のところそういったところでは対応はしているところですので、今日も、朝から職員の方々、また先生方、地域の方々にも見守り活動ということでご協力いただいております。ですので、今週末は、各家庭で、週明けもですね、皆さんご協力いただきながら、しっかりと子どもたちの安全、安心を確保していければということで、今進めているところでもあります。今朝も、実は、印西警察の署長さんとも直接お会いをして意見交換をさせていただきました。かなり昨今ですね、こういった、市民の方々に不安にするような事件が増えていきますので、しっかりと連携をとって進めていこうということで、意見交換させていただきましたので、また、何か起こらないことが一番ですけども、こういったリスク事象が生じる場合には、しっかりと印西警察とも連携をとりながら進めていければと考えているところです。私からは以上になります。

企画政策課長  
(進行)

それでは市長から今2点、報告がございましたが、この件に関しまして委員の皆様から何かご意見、ご質問等ありましたらお願いいたします。

寺田教育長職  
務代理

寺田です。今日はありがとうございました。  
個人的に市長さんにお話したいのですが、現在、随分発展しまして、どんどん人口が増えていきますから、教育界も大変なのですよ。それで、世の中の変化に応じて、今日の議題のDX化は進めざるを得ないと思うのですね。ただ、先生も生徒

も人間ですから、その辺、心の温かい教育をしていくように心がけていこうと思っています。最後に、市としても、財政の面で一層のご理解ご支援をお願いして、私の意見とさせていただきます。よろしくお願いします。

藤代市長

いつも寺田委員には、非常に本質的なご指摘をいただき、さすがだなと伺っているところであります。やっぱり人なので、大事なのは、やっぱり人に、それぞれの子一人ひとりに目を向けた姿勢であるべきだと思いますし、教育はまさにそういった分野だと思いますので、しっかりと、DXはあくまでも手段であって、子どもたちが一番であるということを忘れないように、これは、教育委員会の方々もよくわかっていると思いますけれども、肝に銘じたいと思いますし、あと、わかりやすくということですかね。

あともう1点、財政の方は、なるべく子どもたちのために、お金を使っていけるように、いろいろと今関係各部の方には連携いただいているところですので、そこはどうか1丁目1番地となるように頑張ってもらいたいと思います。よろしくお願いします。

企画政策課長  
(進行)

それでは、寺田委員からもご意見ありましたけれども、市長からの報告事項以外も含めまして、その他、委員の皆様から何かございますでしょうか。お願いします。

長尾委員

DXの話に戻ってしまうのですが、子どもたちの知的好奇心、特にこの時代ですので、無限だと思うのですね。その中で、今、現場の先生方は、今の子どもたちに、十二分に頑張ってくださいしていると思ひまして、その中でこのDXを進めていくということで、先生方への負担がやっぱり、すごく心配でして、もし、この子どもたちの教育にお金をかけてというふうにお考えなのであれば、このDXの専科の先生、DXを進めていくにあたって、それに特化した人材、かけられるお金がありましたら、ぜひお願いしたいです。

藤代市長

今の点、もしも、松本先生、何かあれば、お願いします。

指導課

DXというのは、もちろん負担が増える部分もございますけど、同時に減らすという目的も、いかに効率よく業務するだけではなくて、今までやってきたことを変換するという、マーケットを変えるということがあるので、おっしゃるよう

に、負担はあります。ただ、壁を乗り越えた先は、必ず豊かな学びというか、豊かな生活というか、豊かな学校環境が待っていると思いますので、そういった負担軽減と計画というものを同時に進めていくとともに、今、ICT支援員、実は学校に派遣されているのですね。そういった方々の増員を同時に進めていきたいと思います。

藤代市長

教育委員会の方でも、体制強化というか、先生方が対応できるように、実質何人かいるけれども、もう少し教育委員会の方でも、そういった支援が強化できるような体制に向けて、市長部局のほうでも動いております。

何かあれば、教育長をお願いします。

企画政策課長  
(進行)

その他、よろしいでしょうか。

企画政策課長  
(進行)

そうしましたら、よろしければ、以上をもちまして、令和6年度第2回印西総合教育会議を閉会いたします。  
長時間にわたりお疲れ様でした。  
ありがとうございました。

(午後5時00分)

印西市総合教育会議設置要綱第8条の規定により、上記会議録は、事実と相違ないことをここに承認する。

令和7年1月20日 印西市教育委員会委員 豊田光弘